

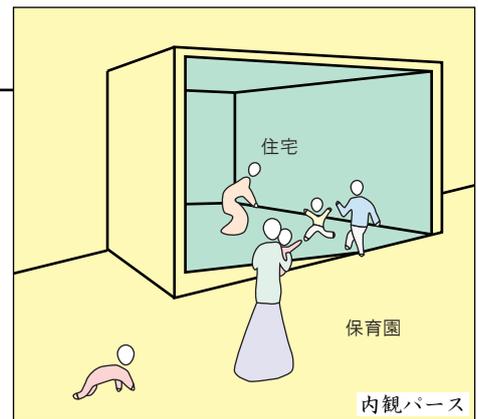
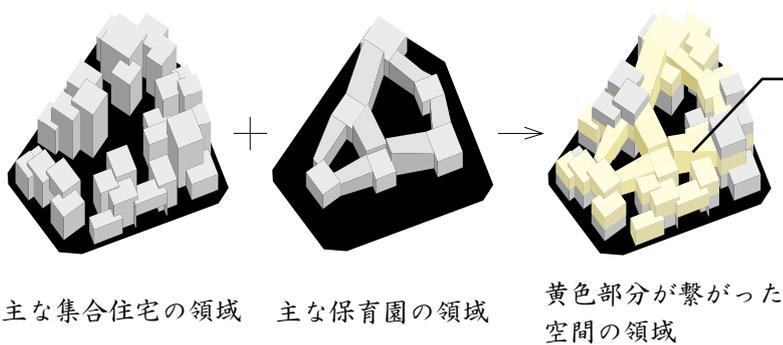
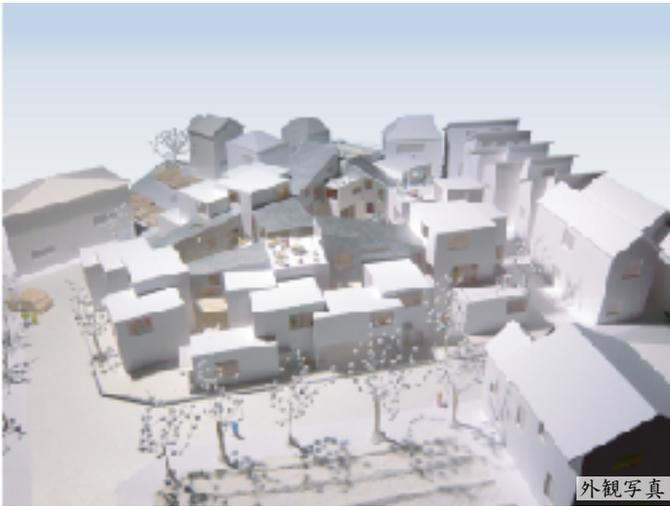
大家族化

～保育園と集合住宅の複合体～

重村研究室 加藤隼輝

近年、女性の社会進出や昨今の不況に伴い、各家庭での育児が困難になりつつある。生まれたばかりの子どもは保育園に預けられ生活の主な場が保育園となる。幼い子どもの過ごす環境は人間の内面を形成していく上で特に重要であるが、従来の保育園の環境では家庭とのギャップが大きすぎるように感じる。つまり、保育園は保育士と子どもとの事務的な関係の中での保育を改める必要があると考えた。

家庭と保育園の環境の差を埋めようと考え、向かう先は、農村集落などでの地域一体で子どもを育てるという姿であった。子どもは他の家庭の親とも気兼ねなく話し触れ合い、子どもたちは地域に守られ育てられる。そのような大きな枠組みでの家庭のような関係の中で育つことが現代の保育の環境として望ましいと考え、そのような環境を創り出す建築を設計した。



保育園と住宅が繋がることにより、園児は住宅内に入り込むことで住宅での生活感を体感すると共に、住人と触れ合うことが出来る。

この子どもは多くの大人に守られて育つ。

卒業設計を終えて自分の作品を振り返ると、自分に欠けていて身につけるべき能力を確認できたことを考えると、非常に満足しています。また、一緒に研究室で作業していた人々がのびのびと作業出来る雰囲気を作ってくれたので、大変楽しく作業することが出来ました。

最後に、指導して下さった先生方やサポートしてくれた先輩、手伝ってくれた後輩には本当に感謝しています。